

教育プログラムの概要及び採択理由

機 関 名	東京海洋大学	申請分野(系)	理工農系
教育プログラムの名称	研究・実務融合による食の高度職業人養成 (実務対応型と研究論文作成型教育プログラムの融合)		
主たる研究科・専攻名	海洋科学技術研究科応用生命科学専攻		
(他の大学と共同申請する場合の大学名、研究科専攻名)			
取組実施担当者	(代表者) 和田 俊		
<p>[教育プログラムの概要]</p> <p>本学は平成15年10月に統合時の大学院設置計画書において、今回定められた<u>大学院設置基準を先取り</u>し、研究科および各課程における人材養成に関する目的等を明確に定め、かつそれをもって大学院を設置した。求める学生像は「<u>時代や社会に機動的に対応でき、地球規模での海洋にかかわる諸問題の解決に創造的に立ち向かい、かつ、海洋とその関連産業分野における先端領域を切り拓く意欲と能力を持つ学生を求め</u>る」としている。<u>博士前期課程は、広い視野に立って専攻分野における研究能力またはこれに加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力を培うことを目的としている。</u>また、<u>博士後期課程では、専攻分野の研究者として自立して研究活動を行い、又はその他高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的としている。</u></p> <p>これまで、本申請の中心となる既存の3専攻では<u>研究者養成を目的として主指導教員の下で研究論文を書く教育に重点が置かれ、実社会のニーズに対応する能力の育成が不十分になるという弊害があった。</u>一方、本年4月に新設した食品流通安全管理専攻[博士前期課程]では、主に社会人を受け入れて、ビジネススクールで使われるケースメソッド方式を取り入れた問題解決型討論授業により、「<u>判断する過程を鍛錬すること</u>」に重点をおいたカリキュラムを用意した。</p> <p>本教育プログラムでは、従来からの研究論文作成指導に重きが置かれている3専攻(応用生命科学専攻[博士後期課程]、食機能保全科学専攻[博士前期課程]、海洋生命科学専攻[博士前期課程])に、本年4月に新たに設置した<u>実務対応型の食品流通安全管理専攻における教育プログラムを融合させる。</u>これにより、学生に<u>広い視野と問題発見・解決能力を涵養し実社会対応能力をつけさせ、もって「高度専門職業人」養成の教育の実質化を図る。</u>具体的には、博士前期課程の2専攻(食機能保全科学専攻、海洋生命科学専攻)に広域履修コースを設け、食品流通安全管理専攻のケース演習4科目を必修として履修させるとともに、相互の専攻開講の基礎論(2科目、新設)の履修を義務づける。また、応用生命科学専攻[博士後期課程]では、幅広い指導教員と連携しながら、特に民間企業で必要とされている<u>短期達成型研究プロジェクトのマネジメント能力(企画・立案・実行・評価力)を養うプログラムを既存の合同セミナー内に組み込むとともに、民間企業や官公庁研究所等での研修を課すインターンシップを新設し、社会ニーズ対応のトレーニングを実施する。</u>また、博士後期課程学生を、食の国家戦略上重要な中国・東南アジア等を中心とした海外の企業・大学・公的機関等へ積極的に派遣し、<u>国際的な視野を育成する。</u></p> <p>本学は、<u>法人化後に、積極的に、新しい本学の特徴的な大学・大学院教育像を求めて、高度職業人教育プログラム開発の先端を切り開いてきた。</u>学部では現代GPプログラム「食品流通安全プログラム」(平成16年度～18年度)により食品流通の安全管理教育プログラムを開発・試行し、また、海洋科学部・大学院一体となり、平成18年度特別教育研究経費の支援をうけ、「<u>海産食品の安全・安心</u>」に関する実践的教育研究の形成プロジェクトを遂行中である。さらに、本年度から実務者養成に特化した大学院(食品流通安全管理専攻)も新設した。<u>本プログラムは、これらの実績ある事業と有機的に連携させることにより、「幅広い視野の高度専門職業人の養成」を行う実現性の高いプログラムである。</u></p>			

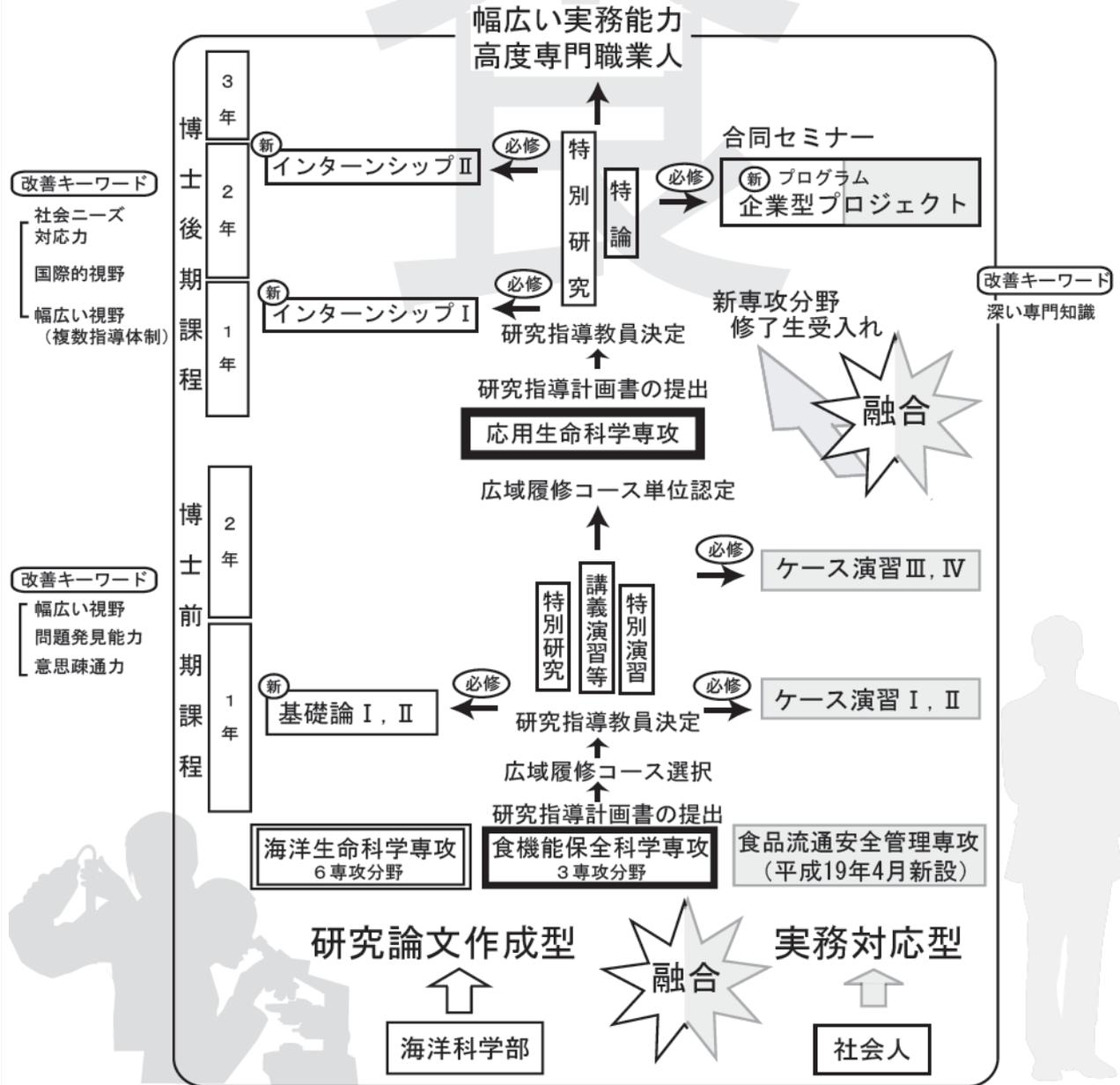
履修プロセスの概念図(履修指導及び研究指導のプロセスについて全体像と特徴がわかるように図示してください。)

東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科

研究・実務融合による食の高度職業人養成
(実務対応型と研究論文作成型教育プログラムの融合)

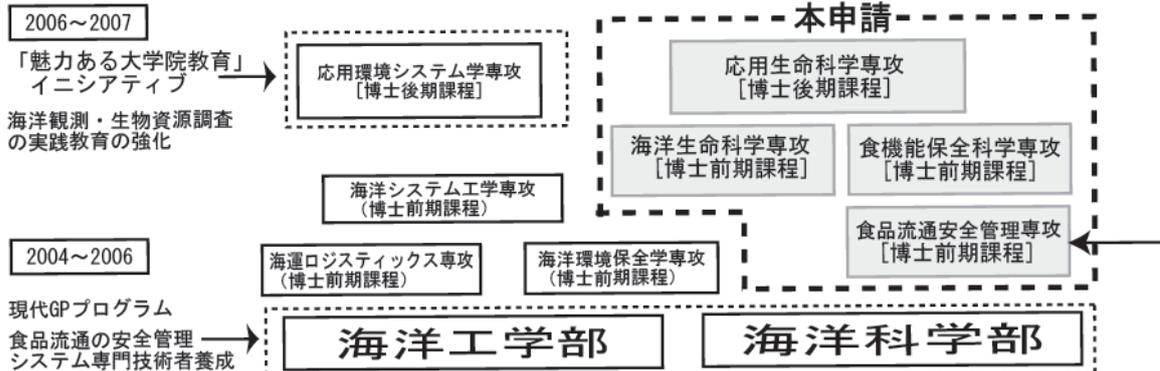
博士後期課程 (応用生命科学専攻)

博士前期課程 (食機能保全科学専攻、海洋生命科学専攻、食品流通安全管理専攻)



注) 食機能保全科学専攻モデル (海洋生命科学広域履修コースも同様)

東京海洋大学の学部・大学院教育の高度専門職業人養成教育改革の流れ



<採択理由>

大学院教育の実質化の面では、研究と実務を融合させた「幅広い視野を持った食の高度専門職業人」養成という、社会のニーズに対応した人材養成目的が明確に掲げられており、それに沿った広域履修コース（博士前期課程）や博士後期課程における科目の新設及び改善など、体系的な教育課程が編成されていることは評価できる。また、実務者養成に必要な民間企業や公的研究機関出身者を含む人材を教員として配置していることも評価できる。

教育プログラムについては、研究論文作成型と実務対応型を融合させた教育プログラムとなっており、「幅広い視野と問題発見・解決能力を涵養し実社会対応能力をつけさせる」という目的を具現化するため、問題解決討論型授業であるケース演習、他専攻学生の学生が履修することを配慮した基礎から学べる基礎論の新設、短期達成型研究プロジェクトのマネジメント能力を養う合同セミナー、インターンシップの取組みが計画されている点は高く評価できる。特徴的な大学・大学院教育像を求めて、全学的に高度専門職業人教育プログラムを開発してきている実績からみても、その実現性、実効性が期待できる。ただし、博士前期課程及び博士後期課程に計画されているインターンシップの内容・運営等については更なる実施計画の検討が必要である。